旧約聖書
プロテスタントのクリスチャンが使う聖書の目次を見ると
前半の四分の三は旧約聖書と呼ばれていることに気づくでしょう
そしてその中には 39 の書が収められていて
これらは 4 つのグループに分けられることもあります
最初の 5 つはモーセ五書次に来るのが歴史書
その次が詩歌そして最後が預言書です
シンプルなようですがなかなかどうして複雑で
それだけに興味深い書なんです これらの書をこの様に配置し
旧約聖書という一冊の本にまとめたのは
イエスや使徒の時代の後のキリスト教の伝統によるものです古代のユダヤ教
の伝統ではこれらはみな別々の巻物で 3 部構成にまとめられタナ
クと呼ばれていました これはヘブル語で教えを意味する
トーラーと預言者を意味するネビイームと
書物を意味するケトビームの頭文字を取った言葉です
タナクとプロテスタントの旧約聖書に収められている書は
すべて同じですがその配置が違います
トーラーは旧約聖書のモーセ五書にあたります
預言書は 4 つの歴史的な物語と 15 の預言者の名前が付けられた
書で構成されています そのあとに来るケトビームは
詩や物語など様々な書物から成っています
この 3 部構成は非常に古いもので死海文書やベンシラの知恵の書
のような古代のユダヤ文書またナザレのイエスもこれについて
言及しました この 3 部構成というかたちは
巻物自体のそれぞれの構成にも取り入れられています
注意深く見るとそれぞれの巻物が相互参照という手法を使って
大きな 3 部構成に関連付けられるようになっていることがわかり
ます では誰がこの様に構成したのでしょうか
それは長い時を経てなされたことです
著者の中にはモーセやダビデのように有名な人もいますが
多くの著者は匿名です 聖書の中で彼らは単に書記とか
預言者と呼ばれています これらの巻物はイスラエルの歴史
を通して少しずつ形作られました というのも
何世代にもわたって書記たちが前の時代の物語や詩を集め
それらを大きなまとまりに統合し
最終的に一つに統一されたタナクに仕上げたからです

詩篇と預言書の文章を読むとこれらの預言者的な書記たちは
自分たちの働きが聖霊に導かれているのを
知っていたことがわかります だからこそ人間の言葉を通して
神が人に語りかけるのです そのため書記たちはこれらの文書
を大切に保管し学び編纂して統一されたものに
まとめました この作業がいつ終わったのか正確
にはわかりませんがイエスが誕生する数世紀前のこと
でした 最終形のタナクにおいてイスラエル
の歴史が預言的に解釈され神が世界を救う計画が明らかに
されています １本のビデオでそのすべてを伝える
ことはできませんがそれらの巻物に何が書かれている
か概観を紹介することはできます トーラーは
神が私たちの世界を素晴らしい住まいとして創造し
祝福したところから始まります そして神は神のかたちに作られた
生き物である人間ヘブル語で言うアダムにそれを
託しました神は人間を世界の王と女王として
治めるように任命しましたが人間には神の知恵に信頼して善
と悪を見極めるかあるいは独立を主張して自分自身
で善悪を決めるかという選択がありました
そこには人間のほかに謎めいた蛇も存在しました
蛇は創造主に反逆する者で人間をだまし
愚かにも恵み深い神に逆らわせたのです
その結果人間は命の源から切り離され
祝福された園を追放され危険な荒野で死ぬ身となりました
その後人間は各地に広がっていき善と悪を自分で決めるようになり
事態は急速に悪化していきました 彼らは街を建てましたがそれは
暴力と抑圧に満ちバビロンという人が自らを神と
見なすような街に発展しました こうして聖書全体の基本的な筋
書の枠組みが整いました 神はご自身の世界を愛し人間を
通してそれを治めたかったのですがその人間たちが問題になりました
彼らは悪の影響下にあり愚かで目先のことしか見えず自
滅の道を歩んでいました ここで必要な解決が見えてきます
新しい人間が必要です 神は蛇に屈することのない新しい
一人の人を送ると約束しました 彼は蛇を踏みつぶし蛇に噛まれ
ます このあと聖書は系図を辿り一組
の男女アブラハムとサラに至ります

神は彼らに最初のページで人間に与えられた神の祝福を託します
そこで彼らはバビロンを去り神が彼らとその子孫に与えると
約束した新しい園のような土地を目指します
こうしてアブラハムの一族の物語が始まります
アブラハムイサクヤコブの 3 代のあとには 12 人の息子
たちの物語が続き読者の期待は高まります
しかし彼らの欠けだらけで破滅的な一族の歴史を読むと
それもしぼんでしまうのです 彼らは嘘をつきだまし性的な不祥事
はもちろんのことお互いを殺し合うようなことまで
します 今まで見て来たとおり彼らも問題
だらけの人間だったのです いろいろあって
アブラハムの一族はエジプトに逃れ
約束の地を追われる身になってしまいました
しかしアブラハムの一族のこうしたすべての失敗が暗い背景となり
時折り訪れる明るい瞬間がくっきりと浮かびあがります
神は彼らに誠実であり続けました そして彼らを通してすべての人類
を救い祝福するという約束までしたの
ですこの約束は契約と呼ばれました この約束がどの様に果たされる
かは明らかではないですが アブラハムの一族は自己中心的な
企みを捨て神の約束に大胆に信頼するときに
一番輝いていました この一族はここから成長して行き
ます 彼らはエジプトで奴隷にされる
はめになりここでトーラーの中のもう一人の
重要人物モーセが登場します 神は彼をイスラエルを救う者とし
その民を山に連れてきて契約関係に招きます
彼らには 613 の戒めが与えられそれは世界に神を指し示す
誠実な新しい民になるためのガイドラインとなりました
モーセは卓越した人物だったので
これらのことを仲介する役を担にないました
彼は神の言葉をイスラエルに伝える究極の預言者だったのです
また神の前でイスラエルを代表する祭司でもありました
さらにイスラエルが窮地に立った時の指導者であり救助者であり
王とさえ呼ばれました しかしトーラーが進むにつれて
イスラエルの民は次々と大きな過ちを犯します
彼らは契約に違反しモーセまでもが神に逆らったのです
そして約束の地に入っても民の過ちは続き

しまいには再び捕囚になるだろうという
モーセの予告でトーラーは終わります
しかし彼には神は約束を守りイスラエルを救い出すだろうという
希望もありました いつの日か神がイスラエルの過
ちを覆い彼らの自己中心的な心を癒やし
真心から神を愛して生きるようにしてくださるという希望です
このあとモーセは死にます トーラーの最後の文章は驚くべ
きものです 時間軸が未来に移り
タナクを編纂した書記たちの言葉が記されているのです
彼らは自分たちの時代と視点から過去のモーセの物語を振り返り
彼のような預言者は二度とイスラエルに起こらなかった
と言いました 預言者であり祭司であり王である
彼のような人がまた現われればいいのにと読者
に期待を抱かせるような言葉です こうしてネビイームへと移って
いきますがこれは大きく二つに分けられて
います まず前預言書です
後の時代の預言者の視点から書いた
約束の地におけるイスラエルの 4 つの物語です
ヨシュアのリーダーシップのもと出だしは順調でした
なぜなら彼はモーセのような人で
また昼も夜もみことばを思い巡らせていました
しかしやがてそのヨシュアでさえ失敗して
モーセやエデンの園の物語から予測できたように
イスラエルは長い坂を下って行くように
破壊的な自滅への道を進んでいくのです
これらの物語はおもにイスラエルの王
預言者祭司たちがいかに嘘をつきだまし合い殺し合って偶像礼拝
をしたかを取り上げています これらは先祖たちの過ちの繰り返し
でしたがそれよりさらに長く血にまみれた
物語でした しかし一縷の望みもあったのです
神は新しい人間を通して 人類を祝福してくださるという
契約を改めて宣言しました その新しい人間とはダビデの子
孫から出る王です ダビデやソロモンなどの物語を
読んでみるとアブラハムの様に神に信頼する
ような一面を見せましたがそれは長くは続きませんでした
そしてアブラハムの一族は一周回って同じ所に戻りました

バビロンに征服され捕囚にされ約束の地を追放されたのです
しかしこれは後の預言者の立場で書かれていて
彼らは捕囚ですべてが終わるのではないことを知っていました
彼らはこのイスラエルの過去の物語を
未来の希望を指し示すものとして書きました
神はご自分の民をバビロンから救い出す時
良かった時のモーセやダビデやソロモンのような新しい王を送
ってくださいます これがネビイームの後半の後預言
書の内容になります 3 つの大きな預言書と
12 の短い預言書にそれぞれ預言者の名前が付けてあります
そしてこれは創世記にある 3 世代と 12 人の子どもたち
と繋がっていて失敗の中に未来の希望が宿る物語
を思い出させます これらの預言書は
トーラーと前預言書にリンクするような相互参照の手法を使い物語
を先に進めていきます イスラエルの預言者の役割は
モーセのように過ちを犯し堕落した古いイスラエルを非難し
迫りくる主の日の裁きについて警告することでした
それは結果的にイスラエルがバビロンに打ち負かされて捕囚
にされる形で訪れました しかし預言者は神の計画について
も語ります それはご自身の民をきよめ
アブラハムのように誠実な新しいイスラエルに造り変えることです
彼らはダビデと呼ばれ新しいモーセのような
約束された王の統治のもとで神との新しい契約を結んで生きます
その方は全世界の上に神の祝福を回復します
ネビイームの結末はトーラーと同じように
タナクの書記たちからの注釈がついています
そこまでの物語を振り返り読者に
新しいモーセのような預言者でエリヤと呼ばれる人物の登場を
期待させます 彼はイスラエルの神がご自身の
民をきよめ救うためにやって来られることを
告げ知らせます ここから
タナクの第三部で多様な巻物が含まれるケトビームになります
各書はトーラーや預言者の大きなテーマにリンクするよう
になっていてそれらをさらに発展させ
互いにテーマを繋ぎ合わせ見事な織物の様に仕上げています
たとえば詩篇はトーラーと預言者の冒頭と繋がる

2 つの詩によって始まっています 詩篇 1 篇では正しい人が登場し
彼はみことばを思い巡らす指導者まるで新しいヨシュアのようです
彼はモーセによって約束された王のようであり
エデンの園にある永遠の命の木のようです
詩篇 2 篇はこの人物を特定します それは約束された王ダビデの子
孫から出る神の子で彼は国々の悪を打ち負かし再び
世界に神の祝福をもたらす方です そして残りの詩篇はこの未来の
希望を待つ間どのように祈ればいいかを教えて
います 次にトーラーや預言者の物語から
生じてくる難しい問題について触れている
知恵の書があります 箴言に書かれていることはトー
ラーのモーセの言葉のようです神に信頼し誠実で従順でありなさい
そうすれば平安があり成功するでしょう
それに対して伝道者の書とヨブ記はイスラエルの複雑な過去を
振り返った上で言います そうやってみたけどそんな単純
な話ではないとこれらの 3 つの書には
神の良い世界においてしばしば直面する混乱を
賢く生きることについての意味深い言葉が記載されています
タナクの最後の二つの書には重要な役割があります
ダニエル書はイスラエルの過ちと苦しみの長い歴史を振り返り
それを新しい未来への希望に繋がるものとして捉えています
いつの日かトーラーと預言者が約束した新しい人間が来ます
彼は悪に傾いていく獣のような人間に踏みにじられますが
その後神によって高く上げられ神の力を持って世界を治めます
そして最後に歴代誌がタナク全体の話を最初から
イスラエルが捕囚から戻るところまでもう一度語るのです
著者は民を新しいエルサレムに集結させ
国々に神の祝福をもたらす未来の王ダビデに対する神の約束
に焦点を当てています 歴代誌の最後の文章は
タナクのあらゆる鍵となる文章と繋がるようになっています
彼らは捕囚からの完全な帰還という希望を持ち続けます
イスラエルの民の中から神が共にいてくださる方が現われ
新しいエルサレムを回復するために上って行って
こうして物語は終わります タナクは壮大かつ意図的な構造
をもつ古代のヘブル語の巻物を集めた
書です イスラエルのあらゆる時代に書

かれたこれらの多様な書物はイスラエルとすべての人類に対する
神の契約についての一つの物語となるように編纂されています
これは生涯をかけて読み思い巡らすために書かれ
この素晴らしい人間のことばが知恵と
未来への希望を語る神のことばとして
今日に至るまで語り続けているのです
これがタナクです
プロテスタントのクリスチャンが使う聖書の目次を見ると
前半の四分の三は旧約聖書と呼ばれていることに気づくでしょう
そしてその中には 39 の書が収められていて
これらは 4 つのグループに分けられることもあります
最初の 5 つはモーセ五書次に来るのが歴史書
その次が詩歌そして最後が預言書です
シンプルなようですがなかなかどうして複雑で
それだけに興味深い書なんです これらの書をこの様に配置し
旧約聖書という一冊の本にまとめたのは
イエスや使徒の時代の後のキリスト教の伝統によるものです古代のユダヤ教
の伝統ではこれらはみな別々の巻物で 3 部構成にまとめられタナ
クと呼ばれていました これはヘブル語で教えを意味する
トーラーと預言者を意味するネビイームと
書物を意味するケトビームの頭文字を取った言葉です
タナクとプロテスタントの旧約聖書に収められている書は
すべて同じですがその配置が違います
トーラーは旧約聖書のモーセ五書にあたります
預言書は 4 つの歴史的な物語と 15 の預言者の名前が付けられた
書で構成されています そのあとに来るケトビームは
詩や物語など様々な書物から成っています
この 3 部構成は非常に古いもので死海文書やベンシラの知恵の書
のような古代のユダヤ文書またナザレのイエスもこれについて
言及しました この 3 部構成というかたちは
巻物自体のそれぞれの構成にも取り入れられています
注意深く見るとそれぞれの巻物が相互参照という手法を使って
大きな 3 部構成に関連付けられるようになっていることがわかり
ます では誰がこの様に構成したのでしょうか
それは長い時を経てなされたことです
著者の中にはモーセやダビデのように有名な人もいますが

多くの著者は匿名です 聖書の中で彼らは単に書記とか
預言者と呼ばれています これらの巻物はイスラエルの歴史
を通して少しずつ形作られました というのも
何世代にもわたって書記たちが前の時代の物語や詩を集め
それらを大きなまとまりに統合し
最終的に一つに統一されたタナクに仕上げたからです
詩篇と預言書の文章を読むとこれらの預言者的な書記たちは
自分たちの働きが聖霊に導かれているのを
知っていたことがわかります だからこそ人間の言葉を通して
神が人に語りかけるのです そのため書記たちはこれらの文書
を大切に保管し学び編纂して統一されたものに
まとめました この作業がいつ終わったのか正確
にはわかりませんがイエスが誕生する数世紀前のこと
でした最終形のタナクにおいてイスラエル
の歴史が預言的に解釈され神が世界を救う計画が明らかに
されています 1 本のビデオでそのすべてを伝える
ことはできませんがそれらの巻物に何が書かれている
か概観を紹介することはできます トーラーは
神が私たちの世界を素晴らしい住まいとして創造し
祝福したところから始まります そして神は神のかたちに作られた
生き物である人間ヘブル語で言うアダムにそれを
託しました 神は人間を世界の王と女王として
治めるように任命しましたが人間には神の知恵に信頼して善
と悪を見極めるかあるいは独立を主張して自分自身
で善悪を決めるかという選択がありました
そこには人間のほかに謎めいた蛇も存在しました
蛇は創造主に反逆する者で人間をだまし
愚かにも恵み深い神に逆らわせたのです
その結果人間は命の源から切り離され
祝福された園を追放され危険な荒野で死ぬ身となりました
その後人間は各地に広がっていき善と悪を自分で決めるようになり
事態は急速に悪化していきました 彼らは街を建てましたがそれは
暴力と抑圧に満ちバビロンという人が自らを神と
見なすような街に発展しました こうして聖書全体の基本的な筋
書の枠組みが整いました 神はご自身の世界を愛し人間を
通してそれを治めたかったのですがその人間たちが問題になりました

彼らは悪の影響下にあり愚かで目先のことしか見えず自
滅の道を歩んでいました ここで必要な解決が見えてきます
新しい人間が必要です 神は蛇に屈することのない新しい
一人の人を送ると約束しました 彼は蛇を踏みつぶし蛇に噛まれ
ます このあと聖書は系図を辿り一組
の男女アブラハムとサラに至ります
神は彼らに最初のページで人間に与えられた神の祝福を託します
そこで彼らはバビロンを去り神が彼らとその子孫に与えると
約束した新しい園のような土地を目指します
こうしてアブラハムの一族の物語が始まります
アブラハムイサクヤコブの 3 代のあとには 12 人の息子
たちの物語が続き読者の期待は高まります
しかし彼らの欠けだらけで破滅的な一族の歴史を読むと
それもしぼんでしまうのです 彼らは嘘をつきだまし性的な不祥事
はもちろんのことお互いを殺し合うようなことまで
します 今まで見て来たとおり彼らも問題
だらけの人間だったのです いろいろあって
アブラハムの一族はエジプトに逃れ
約束の地を追われる身になってしまいました
しかしアブラハムの一族のこうしたすべての失敗が暗い背景となり
時折り訪れる明るい瞬間がくっきりと浮かびあがります
神は彼らに誠実であり続けました そして彼らを通してすべての人類
を救い祝福するという約束までしたの
ですこの約束は契約と呼ばれました この約束がどの様に果たされる
かは明らかではないですがアブラハムの一族は自己中心的な
企みを捨て神の約束に大胆に信頼するときに
一番輝いていました この一族はここから成長して行き
ます 彼らはエジプトで奴隷にされる
はめになりここでトーラーの中のもう一人の
重要人物モーセが登場します 神は彼をイスラエルを救う者とし
その民を山に連れてきて契約関係に招きます
彼らには 613 の戒めが与えられそれは世界に神を指し示す
誠実な新しい民になるためのガイドラインとなりました
モーセは卓越した人物だったので
これらのことを仲介する役を担にないました
彼は神の言葉をイスラエルに伝える究極の預言者だったのです

また神の前でイスラエルを代表する祭司でもありました
さらにイスラエルが窮地に立った時の指導者であり救助者であり
王とさえ呼ばれました しかしトーラーが進むにつれて
イスラエルの民は次々と大きな過ちを犯します
彼らは契約に違反しモーセまでもが神に逆らったのです
そして約束の地に入っても民の過ちは続き
しまいには再び捕囚になるだろうという
モーセの予告でトーラーは終わります
しかし彼には神は約束を守りイスラエルを救い出すだろうという
希望もありました いつの日か神がイスラエルの過
ちを覆い彼らの自己中心的な心を癒やし
真心から神を愛して生きるようにしてくださるという希望です
このあとモーセは死にます トーラーの最後の文章は驚くべ
きものです 時間軸が未来に移り
タナクを編纂した書記たちの言葉が記されているのです
彼らは自分たちの時代と視点から過去のモーセの物語を振り返り
彼のような預言者は二度とイスラエルに起こらなかった
と言いました 預言者であり祭司であり王である
彼のような人がまた現われればいいのにと読者
に期待を抱かせるような言葉です こうしてネビイームへと移って
いきますがこれは大きく二つに分けられて
います まず前預言書です
後の時代の預言者の視点から書いた
約束の地におけるイスラエルの 4 つの物語です
ヨシュアのリーダーシップのもと出だしは順調でした
なぜなら彼はモーセのような人で
また昼も夜もみことばを思い巡らせていました
しかしやがてそのヨシュアでさえ失敗して
モーセやエデンの園の物語から予測できたように
イスラエルは長い坂を下って行くように
破壊的な自滅への道を進んでいくのです
これらの物語はおもにイスラエルの王
預言者祭司たちがいかに嘘をつきだまし合い殺し合って偶像礼拝
をしたかを取り上げています これらは先祖たちの過ちの繰り返し
でしたがそれよりさらに長く血にまみれた
物語でした しかし一縷の望みもあったのです

神は新しい人間を通して人類を祝福してくださるという
契約を改めて宣言しました その新しい人間とはダビデの子
孫から出る王です ダビデやソロモンなどの物語を
読んでみるとアブラハムの様に神に信頼する
ような一面を見せましたがそれは長くは続きませんでした
そしてアブラハムの一族は一周回って同じ所に戻りました
バビロンに征服され捕囚にされ約束の地を追放されたのです
しかしこれは後の預言者の立場で書かれていて
彼らは捕囚ですべてが終わるのではないことを知っていました
彼らはこのイスラエルの過去の物語を
未来の希望を指し示すものとして書きました
神はご自分の民をバビロンから救い出す時
良かった時のモーセやダビデやソロモンのような新しい王を送
ってくださいます これがネビイームの後半の後預言
書の内容になります 3 つの大きな預言書と
12 の短い預言書にそれぞれ預言者の名前が付けてあります
そしてこれは創世記にある 3 世代と 12 人の子どもたち
と繋がっていて失敗の中に未来の希望が宿る物語
を思い出させます これらの預言書は
トーラーと前預言書にリンクするような相互参照の手法を使い物語
を先に進めていきます イスラエルの預言者の役割は
モーセのように過ちを犯し堕落した古いイスラエルを非難し
迫りくる主の日の裁きについて警告することでした
それは結果的にイスラエルがバビロンに打ち負かされて捕囚
にされる形で訪れました しかし預言者は神の計画について
も語ります それはご自身の民をきよめ
アブラハムのように誠実な新しいイスラエルに造り変えることです
彼らはダビデと呼ばれ新しいモーセのような
約束された王の統治のもとで神との新しい契約を結んで生きます
その方は全世界の上に神の祝福を回復します
ネビイームの結末はトーラーと同じように
タナクの書記たちからの注釈がついています
そこまでの物語を振り返り読者に
新しいモーセのような預言者でエリヤと呼ばれる人物の登場を
期待させます 彼はイスラエルの神がご自身の
民をきよめ救うためにやって来られることを

告げ知らせます ここから
タナクの第三部で多様な巻物が含まれるケトビームになります
各書はトーラーや預言者の大きなテーマにリンクするよう
になっていてそれらをさらに発展させ
互いにテーマを繋ぎ合わせ見事な織物の様に仕上げています
たとえば詩篇はトーラーと預言者の冒頭と繋がる
2 つの詩によって始まっています詩篇 1 篇では正しい人が登場し
彼はみことばを思い巡らす指導者まるで新しいヨシュアのようです
彼はモーセによって約束された王のようであり
エデンの園にある永遠の命の木のようです
詩篇 2 篇はこの人物を特定します それは約束された王ダビデの子
孫から出る神の子で彼は国々の悪を打ち負かし再び
世界に神の祝福をもたらす方です そして残りの詩篇はこの未来の
希望を待つ間どのように祈ればいいかを教えて
います 次にトーラーや預言者の物語から
生じてくる難しい問題について触れている
知恵の書があります箴言に書かれていることはトー
ラーのモーセの言葉のようです 神に信頼し誠実で従順でありなさい
そうすれば平安があり成功するでしょう
それに対して伝道者の書とヨブ記はイスラエルの複雑な過去を
振り返った上で言います そうやってみたけどそんな単純
な話ではないとこれらの 3 つの書には
神の良い世界においてしばしば直面する混乱を
賢く生きることについての意味深い言葉が記載されています
タナクの最後の二つの書には重要な役割があります
ダニエル書はイスラエルの過ちと苦しみの長い歴史を振り返り
それを新しい未来への希望に繋がるものとして捉えています
いつの日かトーラーと預言者が約束した新しい人間が来ます
彼は悪に傾いていく獣のような人間に踏みにじられますが
その後神によって高く上げられ神の力を持って世界を治めます
そして最後に歴代誌がタナク全体の話を最初から
イスラエルが捕囚から戻るところまでもう一度語るのです
著者は民を新しいエルサレムに集結させ
国々に神の祝福をもたらす未来の王ダビデに対する神の約束
に焦点を当てています 歴代誌の最後の文章は
タナクのあらゆる鍵となる文章と繋がるようになっています

彼らは捕囚からの完全な帰還という希望を持ち続けます
イスラエルの民の中から神が共にいてくださる方が現われ
新しいエルサレムを回復するために上って行って
こうして物語は終わります タナクは壮大かつ意図的な構造
をもつ古代のヘブル語の巻物を集めた
書ですイスラエルのあらゆる時代に書
かれたこれらの多様な書物はイスラエルとすべての人類に対する
神の契約についての一つの物語となるように編纂されています
これは生涯をかけて読み思い巡らすために書かれ
この素晴らしい人間のことばが知恵と
未来への希望を語る神のことばとして
今日に至るまで語り続けているのです
これがタナクです